

アトピー性皮膚炎、乾癬、ニキビを鎮め美白美肌効果も

カンナビジオール(CBD)の美容効果

2011年、米国立がん研究所が、大麻草に含まれるカンナビジオールに、がんを抑制する作用があると発表しました。カンナビジオールには鎮痛作用、抗炎症作用、抗酸化作用などがあるとされています。また、カンナビジオールの主成分のひとつであるカンナビジオール(CBD)を肌に塗布することで、皮膚疾患が解消した、肌が美しくなったという声も上がっています。

WHOも認めた合法の大麻草成分

カンナビジオールとは大麻草に含まれる化学物質の総称。カンナビジオールの主成分にはテトラヒドロカンナビノール(THC)とカンナビジオール(CBD)があります。日本の法律で禁じられているのは精神に作用するTHCのみで、CBDは合法の成分です。世界保健機構(WHO)も2017年に「CBDは安全な成分である」と公式見解を発表しています。CBDは、大麻草に含まれる104種類のカンナビノイドのうち、薬理作用が最も高い成分で、多岐にわたる健康効果が世界的に注目されています。

ステロイドの副作用対策にも

内服で優れた抗炎症作用をもたらすCBDは、肌に塗布することでも、効果を発揮します。医療機関においてアトピー性皮膚炎とステロイドの副作用による肌の黒ずみに悩む患者に、CBD配合の化粧品を勧めたところ、数日がかゆみや赤みの緩和、長期使用では肌の軟化や色素

沈着の緩和が見られたそうです。

CBDがアトピー性皮膚炎や乾癬などの皮膚疾患に効果を発揮するのは、エンドカンナビノイドシステム(ECS)という崩れた身体の機能を正常に調整する機能があるからです。アトピー性皮膚炎や乾癬は免疫機能のトラブルと深く関係していますが、CBDは抗炎症作用のほかにも、免疫系に働きかけて、身体調整機能を正常に導く効果があると考えられています。コロラド大学医学部皮膚科准教授のRobert Dellavalle医師の発表によると乾癬患者21名にCBD入りのクリームを1日2回、3週間、間にわたって塗布する短期間の実験で、21人中8人の掻痒が完全に解消されたとのこと。

皮脂による酸化を抑える

CBDは余分な皮脂分泌を抑制しま

す。この作用は脂漏性皮膚炎やニキビのケアに役立ちます。また、CBDには細胞がストレス下に置かれた時に放出される酸素の毒性形態であるフリーラジカル(活性酸素)を減らす作用があると、全米科学アカデミー医学研究所の(1)OMレポートに記載されています。CBDがもたらす強い抗酸化作用は、日焼けなどの老化原因から皮膚を保護し、エイジングケアの有効な手立てになりそうです。内服での効能も海外の研究機関で証明されていますが、外用としてもおおよそ隙がない美容成分といえるでしょう。

現在、日本でもCBDを配合した食用油が、健康食品として数多く流通しています。ベースのオイルもオリーブオイル、ヘンプオイル、MCTオイルなど様々です。CBDは身体の機能を正常に調整する優れた成分ですが、オイルは全般的に酸化し易い性質なので、皮膚がトラブルを抱えている場合には、食用オイルをそのまま肌に塗布するのは適切ではありません。現在、国内においてCBDを配合した外用のローションやクリームが販売されています。□から摂取するもの、肌につけるもの、目的に応じた商品を選ぶことがポイントです。そして、何より安全性が重要です。濃度や品質、安全性や用途などの疑問にきちんと回答をしてくれる誠実な企業の商品を選びましょう。

生彩に満ちた新美容成分CBD配合 日本初のスキンケアシリーズ

organy
From the natural wisdom

LUXZ CBD PLUS ラグゼ シービーディー プラス

MOISTURE RICH LOTION 100g ¥13,200 (税込)

HYBRID CREAM 48g ¥13,200 (税込)

株式会社 organy 東京都墨田区向島 3-22-2

☎ 0800-800-5052 URL: organy-japan.com

organy



国内製造

低刺激設計

